

## 廃炉・汚染水問題に関する海外広報

平成25年12月18日  
廃炉・汚染水対策チーム

### 1. 8月以降の海外報道の例

- ・ 8月21日、東電の貯蔵タンクから3000トンの高濃度汚染が漏えい※。(8/22 英ガーディアン紙)  
※ 実際は約300トンの漏えい
- ・ 政府は日本政府が関連情報を隠蔽・縮小していないか詳細に観察した上で積極的な対策を促すべきだ(8/26 韓国 ハンギョレ新聞)
- ・ 国は受身の姿勢を崩しておらず、事故への対応よりも原発の再稼働や輸出計画に関心を示している。(8/27 仏 ル・モンド紙)
- ・ 福島第一原発の対応が今後は責任のある形で行われると思うのは楽観主義者だけだ(9/5 独 南ドイツ新聞)
- ・ 汚染水の流出は日本の野生生物と食物連鎖にも関わる環境災害に及んでいる。／コントロールされた投棄は安全であるという東京電力の言葉を信じようとする者は日本人にはほとんどいない。(10/22 米 ワシントン・ポスト)

### 2. これまでの主な海外広報対応等

#### (1) 国際的な専門家・専門機関への対応

- ・ 廃炉・汚染水問題に関連する情報を、IAEAのホームページを通じて国際的に発信(10月以降随時)
- ・ 海洋モニタリングに関するIAEA専門家との意見交換(11/6～12)
- ・ 福島第一原発の廃炉に向けたIAEAレビューミッションを実施(11/25～12/4)

#### (2) 海外メディアへの対応

- ・ 4号機の燃料取出し前に海外メディアを対象とした現地取材機会を設定(11/7)
- ・ 日本産水産物の安全性について、国内外の報道関係者や在京大使館を対象としたブリーフィングを実施(11/13)
- ・ 国内外の報道関係者や在京大使館を対象とした水産物の放射性物質調査の現地見学会・意見交換会を実施(12/10)
- ・ 在京特派員や訪日する海外メディアに対し、廃炉・汚染水対策チームを中心に説明を実施(随時)
- ・ 官邸等の英語ホームページを通じ、汚染水対策の概要を分かりやすく説明した英文ファクト・シート、海洋モニタリング結果及び汚染水対策の最新情報等を英語で発信(随時)。